

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0292700028		
法人名	社会福祉法人水鏡会		
事業所名	グループホームひだまりの里		
所在地 (電話番号)	〒039-0814 青森県三戸郡南部町塚渡字館2番地7 (電話) 0178-84-4774		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年11月20日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 6月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	20人, 非常勤 人, 常勤換算 10人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 ~ 27,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期9,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 900 円			

### (4) 利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	59 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 きむらクリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

畑や木々を見渡せる自然に囲まれた環境に位置し、敷地内には畑や鶏小屋、遊歩道が整備されている。玄関近くでは犬が、玄関内では猫が来客者を迎え入れてくれる。遊歩道沿いの池では鯉を飼育しており、入居者を癒してくれている。遊歩道や畑へは自由に入居者へ入居者が思い思いにやりたい作業を行いながら、役割を見出せる事業所である。他市町村からの入居者もあり、出身地の祭りや行事への参加支援をされ大変喜ばれている。事業所としては早くから重度化・看取りケアへの取り組みをされ、重度化への指針を家族に説明し、主治医との連携を図りながら、看取りケアを実際に行っている。入居者への言葉かけや一人ひとりの思いに寄り添うケアに心がけ、管理者・職員共にチームワークを大切にしながらサービスの質の向上に向け取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域自治会への加入については、近隣に民家がなく加入はできていないが、地域のイベントや祭りに参加され、地域交流は図られている。災害対策への地域との協力体制については、運営推進会議にて地域消防団の協力が得られることとなり、緊急連絡網も確立された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各ユニット毎に話し合い全職員で取り組んでいる。日頃のケアを見直すきっかけとなっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催され、入居者の状況や行事内容の伝達・要望や提案が出され、実現に向けた話し合いがなされている。安心感を得て楽しく暮らす為の環境整備がされ、必要物品の導入もされた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	面会時に状況報告を行い、暮らしぶりのわかる広報誌の発送も行っている。遠方の家族には、手紙や電話・メールで状況報告をしている。報告時に家族から意見や要望を伺い、入居者からは日々の会話の中から意見を汲み取りサービスの質の向上へとつなげている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	事業所周辺の環境により日常的な地域交流は難しい状況にあるが、地域イベントへの参加や中学生の体験学習の受け入れを通して交流は図られている。また、職員は、キャラバンメイトとして認知症普及活動に参加し、地域貢献をしている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の出身地行事に参加する等、地域性を大切にしている。家族の一員として、地域の中でその人らしく生活して欲しいと考え、独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念の他に各ユニット毎の目標を掲げ、毎日申し送り時に唱和している。具体化された目標は、実践しやすく年度末に評価され、次年度への見直しもされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣に民家がなく日常的な地域交流は無理な部分があるが、地域のイベントや祭りへの参加、中学生の体験学習を受け入れる等して交流を図っている。行事を通しての同法人事業所との交流も行っている。キャラバンメイトとして地域の認知症普及活動に参加している職員もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、ユニット毎に話し合って作成したものを管理者がまとめ、全職員で取り組んでいる。自己評価は、日頃のケアを見直すきっかけとなり、外部評価を活かして具体的な改善に向けた話し合いがなされている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的開催され、入居者の状況や行事内容等の伝達・要望や提案が出され、実現に向けた話し合いがなされている。積雪の多い時でも車輻が入り易くする為に除雪機が導入され、緊急時への備えができた。事業所周囲の散歩道の整備がされ、車椅子でも散歩できるようになる等意見が活用されている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外でも、福祉担当者と連絡を取り合い、運営上の相談や課題解決に向けた連携がとられている。地域包括支援センターとも連携を図っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会を設け、全職員が制度を理解している。必要な入居者への支援ができるよう取り組んでおり、現在利用している方もいる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止への内部研修を行い、日々のケアで虐待が見過ごされないよう、また指示的な言葉は使用しないよう互いに注意し、防止に心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には丁寧に詳しく説明している。疑問や不安がないか確認しながら説明を行い、納得された上で次に進むようにしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に近況報告をしている。暮らしぶりがわかる広報誌を作成し、定期的に家族に郵送している。遠方の家族には、手紙や電話・メールで報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や要望の為の投書箱を設置しているが、今まで投書された方はいない。家族に近況報告する際に意見や要望を伺うようにしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の職員異動は必要最小限とし、入居者へのダメージを防ぐよう配慮をしている。異動の場合の引継ぎは十分に行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、伝達研修も行われている。研修案内を掲示して職員が積極的に参加できるよう配慮している。新採用者には、2ヶ月間法人本部で研修を受けてもらう体制ができています。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度発足した地域のグループホーム協議会に加入し、学習会やスタッフ研修等で交流を深めている。協議会は情報交換や親睦の場となっている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心感を得る為に入居前の訪問を実施し、入居後は可能な限り同じ職員が関わるようにしている。他入居者への紹介も出身地や生活歴の一部を交えながら行っている。家族と相談して馴染みの物の持ち込みもしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のキャリアを活かし、畑作業や装飾品の作成等を行いながら共に楽しめるようにしている。畑作業やペットの飼育等入居者から学ぶ事も多く、互いに支え合う関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ゆっくり入居者一人ひとりに関わり、日々の会話の中から意向を汲み取ったり、言葉遣いや身体表現サインも見過ごさないようにしている。意思疎通が困難な方には、その場の雰囲気やしぐさから気持ちを汲み取るよう寄り添ったケアを行い、思いにすぐ対応するよう心がけている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃から入居者や家族の意見を伺い、職員からの情報収集も行い、カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に評価し、新たな介護計画を作成している。状態に変化のあった方は、その都度家族に状態報告・相談をし、担当職員から情報収集して現状に即した介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人の車輛を活用しての日常の買い物支援や、地域のイベント参加など、希望に添う体制が整っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医への受診を支援している。受診時に付き添う家族が不安にならないよう状況を伝え、必要時には職員も付き添っている。伝達事項をまとめ家族に持参してもらうことで、主治医との連携も図られている。往診希望者には定期的な診て頂けるよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書の中に重度化に関わる指針があり、家族への説明がなされている。重度化された場合は再度説明をして主治医とも話し合いをもっている。看取り介護を希望された場合は、同意書を交わし、看取り介護計画書を作成して看取りケアを行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護の研修をし、全職員が声かけや対応に配慮している。来客時や電話対応にも気を配り、普段関わりのない家族からの電話対応にも十分配慮されている。また、個人情報の取り扱いにも注意されている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースに合わせて穏やかに過ごせるよう配慮し、やりたい事が行えるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を楽めるよう好みを確認して郷土食を取り入れたり、おやつ作りを一緒に行っている。準備や片付けができる方にはしてもらい、作業をしながら要望を聞き、より楽めるように取り組んでいる。畑で採れた野菜を食材として調理し、野菜作りの意欲も高まっている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽めるように支援している</p>	<p>入浴曜日は決めてはいるが、24時間いつでも希望時に入浴できる体制が整っている。入浴順は入居者に任せており、入浴拒否のある方には、気分に配慮しながら誘導している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>手芸や畑作業・ペットの世話や鶏の卵集め等、経験を活かして楽しんで作業できるよう配慮されている。事業所周囲に遊歩道が整備され、車椅子での散歩がしやすく、季節を感じながら外気浴ができています。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常の買い物や近隣への外出支援を行っている。希望があれば出身地の祭りや行事等への参加の為の外出支援も行っている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、学ぶ機会を設けている為、全職員が禁止の対象となる具体的な行為を理解している。“気付かずに言葉による拘束をしているかもしれない”という意識を常にもち予防に心がけている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯玄関は施錠している。事業所周囲には坂道があり危険な為、各ユニットの非常口にセンサーを取り付け、夜間のみ使用している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て通報訓練や避難訓練を実施している。近隣に民家が無く地域住民と共に訓練することは困難であったが、運営推進会議にて民生委員の協力により、地域の消防団の協力が得られるようになった。緊急連絡網も確立している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の管理栄養士の指導を受けながら献立をたてている。担当者は、本部の給食委員会に参加し、情報を得たりアドバイスを受けている。摂取量の記録をし、状況に応じて看護師や医師と連携を図っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、手洗い・うがい・季節の流行に対する掲示を行っている。空気清浄機や加湿器を設置して湿度管理を徹底して予防に取り組んでいる。		部分的にほこりが集まる場所があり、掃除を徹底する事でより予防効果が上がると思われる為、今後の取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ユニットが完全に仕切られていない為開放感があり、共用空間は明るくゆっくりくつろげるように配慮されている。装飾品は空間に合うもので、花や小物の和める物である。遊歩道へは自由に出入れ、周辺の花や木で季節を感じられる。動物好きの方にも配慮され、いつでもペットに会える環境である。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真や思い出のある物品を部屋に飾り、いつでも手に取ることができるよう配慮されている。生活用品の配置も一人ひとりに合わせ、過ごし易いよう工夫がなされている。</p>		

 は、重点項目。